

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	特定健康診査、後期高齢者医療健康診査、がん検診などの受診を奨励し、その結果から保健指導により生活習慣病予防など健診結果の改善等、要介護状態への予防を努めていく。	【1】健康づくり・介護予防の推進 ①各種健診・検診・保健指導等の実施	①特定健康診査の受診率 (R5) 受診率 45 ①後期高齢者質問票や健診結果、医療情報等に より栄養指導を受けた人数 (R5) 人数 50	①特定健診受診率 (R4) 受診率 38.5 未受診者へ年1回の勧奨通知を送付。40歳代の受診者には地域商品券を進呈。また、受診率が低い地区には個別訪問で受診勧奨を実施。 ①栄養指導人数 (R4) 人数 43 月1回の栄養相談を実施。75歳以上の方には質問票（全数）を送付。また、住民の食生活傾向の把握のため、地区を限定し低栄養に関する全数調査を実施。	○	①受診率の向上のため住民への受診勧奨を行いながら、受診率の低い40歳代や地区には個別で受診勧奨を行うなど、細かな活動で受診勧奨を進めていく。 ②低栄養に関して住民の傾向を把握することにより、適切な栄養指導方針を検討し、食生活改善を周知していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	外出機会の減少や生活不活発によるフレイル予防対策として、健康管理や健康づくり、介護予防等の啓発を行いつつ、地域サロン等での健康相談や介護予防教室等を開催していく必要がある。	②健康づくり・介護予防の実施	②パワーリハビリ教室の延べ参加者数 (R5) 参加者数 400	②パワーリハビリ教室延べ参加者数 (R4) 参加者数 287 ・コロナ禍のため定員を減らして実施。	○	・呼びかけでも参加してもらえないケースがあったため、きっかけ作りなど参加しやすい方法を検討していく必要がある。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進	週一回以上開催の通いの場への参加者割合 (R5) 割合 8	・週一回以上開催の通いの場への参加者割合 (R4) 割合 11.2	◎	・参加割合は目標値を超えている。 ・高齢者等への心身の健康づくりや介護予防、地域支えあいを推進するため、通いの場の広報掲載やガイドブック等を活用して啓発し、新たな参加者の発掘に努めている。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進 【3】認知症施策の推進	認知症サポーター延受講者数 (R5) 受講者数 3,500	認知症サポーター延受講者数 (R4) 受講者数 3,324名 R4.8.28 下神野小学校 8名受講 R5.1.18 キャラバンメイトスキルアップ研修実施	○	・コロナ禍により積極的な講座開催ができていなかったが、今後は民生委員等団体を対象に取り組んでいく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進	いきいき百歳体操の活動グループ数 (R5) グループ数 25	いきいき百歳体操の活動グループ数 (R4) グループ数 21	○	・1グループが新たに立ち上がり活動開始。引き続き、立ち上げ支援を行うと共に、現在活動中のグループには活動支援を行っていく。 ・地域サロンなど通いの場へ出向き、体操を推奨していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進	60歳以上に占める老人クラブ会員の割合 (R5) 割合 35	老人クラブ会員割合 (R4) 割合 29.2	△	・高齢者人口は増加しているものの、就労年齢の上昇やライフスタイル、意識の変化などで、新規入会は減少している。 ・新規入会は現会員の勧誘によるものが多いため、魅力ある事業の計画により、入会したいと思える団体作りを心がけていく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(7)社会資源リストの作成・配布	(7)社会資源リストによる情報提供	社会資源リストによる情報提供 (R4) R2でリスト作成し、冊子を全戸配布済み、併せて町HPにも掲載。	○	・情報更新の必要ある際は、適時HP上で更新し継続して情報発信していく。冊子による全戸配布は、インターネット上での情報発信と比較し、費用面や有効性を加味してその必要性を検討したい。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(4)推進会議の開催	(4)海南海草在宅医療・介護推進連携会議	海南海草在宅医療・介護推進連携会議 (R4) 開催数 1 医療介護専門職へのアンケート調査を実施し、課題解決に向けて取り組んだ。 参加委員は連携を深められている。	◎	・R4に実施した医療介護専門職へのアンケート調査結果に基づいて、R5は課題解決に向けて取り組む予定。PDCAサイクルに沿った取り組みにて、在宅医療・介護連携を推進する。

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(ウ)代診医制度の促進	(ウ)代診医制度の促進	代診医の登録数、依頼件数 (R4) 登録数 12 依頼件数 1 医療機関を訪問し医師との意見交換を実施。	○	・代診医の登録・活用が少ないのは、周知不足な可能性もあるため、継続して啓発を推進する必要がある。 ・今後も医師や医療機関の意見を十分に聴取しながら、代診医を含む連携体制を推進していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(エ)連携に係るエチケット集の普及活用	(エ)多職種連携エチケット集の普及	多職種連携エチケット集の周知を実施。町ホームページにて医療資源の情報を適宜更新。	◎	・エチケット集の周知を行い、ホームページにて医療資源の情報を適宜更新する。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(オ)サポートセンターとの連携	(オ)海南海草在宅医療・介護推進連携サポートセンター相談窓口	サポートセンターへの相談件数 (R4) 件数 8 町広報誌にサポートセンターだよりを掲載し周知に務めた。	◎	・サポートセンターへの相談件数が少ないのは、行政（当課）へ直接相談することが多いためと考えている。サポートセンター相談窓口のより一層の住民周知を図っていくことが必要。また、相談に対しては、サポートセンターと十分に連携し対応していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(カ)多職種間の研修会	(カ)多職種間の研修会	海南海草管内の多職種職員を対象に、「ACPと在宅看取り」についてのオンライン研修会を開催し、64名が参加。	◎	・オンライン研修会は、会場開催での研修会に比べて参加しやすいとの意見があった。しかし、連携を深めるためには、顔の見える対面での開催が効果的と考え、今後も会場開催やオンライン開催の両者を念頭にその方法なども含め検討・実施していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(キ)普及啓発講座等	(キ)普及啓発講座等の延参加人数 (R5) 参加人数 150	普及啓発講座等の延参加人数 (R4) 参加人数 136 在宅医療・介護普及啓発として映画「ケアニン」上映会を開催。	◎	・より多くの方に参加していただけるように、実施場所や内容を検討し企画する。引き続き普及啓発を実施する。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(ク)関係市町村等との連携	(ク)海南市、保健所、海南海草在宅医療・介護推進連携サポートセンター等との運営会議	運営会議を開催。 海南海草在宅医療・介護推進会議 1回 SC運営会議 3回 作業部会 5回（うち2回はweb会議） その他、適宜電話やメールなどでの相談や月1回の実績報告にて情報を共有。	◎	・海南市や保健所、海南海草在宅医療・介護推進連携サポートセンター等との連携は図れている。引き続き連携強化を図る。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう地域包括センターを中心に医療・福祉・介護や関係機関・団体等と連携を強化しながら継続的な支援が必要。	【2】地域包括支援センターの機能強化	・総合的な相談対応件数（年） (R5) 件数 550 ・権利擁護相談件数（年） (R5) 件数 25 ・町長による成年後見申立件数（年） (R5) 件数 1	・総合的な相談対応件数（年） (R4) 件数 536 ・権利擁護相談件数（年） (R4) 件数 5 ・町長による成年後見申立件数（年） (R4) 件数 3	◎	・包括支援センターへの相談件数は、例年約500件で推移しており、一定の住民認知があるように思う。 ・権利擁護支援が必要な者に早期に気づき、繋げられるよう、ケアマネージャー等支援者を対象とした研修を実施していく。 ・相談者に対し、適切な支援が何なのかを検討するチーム作りに取り組んでいく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう地域包括センターを中心に医療・福祉・介護や関係機関・団体等と連携を強化しながら継続的な支援が必要。	【3】地域密着型サービスの充実	・指定済みの事業所への指導等、給付適正化を図る ・ニーズを踏まえた整備の検討	・運営指導件数 (R4) 件数 0 コロナ禍により、運営指導も外部評価機関による票かも実施できなかった。 ・運営推進会議を通じて待機者を把握しているが、現状は概ね充足している。	×	・同じサービス形態でも、サービスの質に差があるため運営指導計画をたてて定期的に実施していく。また、緊急など指導の必要性が生じた場合は早急に対応していく。

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう地域包括センターを中心に医療・福祉・介護や関係機関・団体等と連携を強化しながら継続的な支援が必要。	【4】生活支援体制の整備・生活支援サービスの充実	・高齢者福祉事業の継続 ・社会資源リストの更新 ・移送支援サービスの検討 ・地域で支えあうための講座の開催	・高齢者福祉事業の継続 ・社会資源リストの適時更新 ・移送支援サービスの立ち上げ R4.5～総合事業訪問型サービスDによる移送サービス「きみのり」（長谷毛原）を事業化。 ・地域支え合いのためのフォーラムやワークショップを開催。有志による地域活動「チーム☆とどろき」（動木）の立ち上げ。	◎	・チーム☆とどろきを第2層協議体とし、活動の後方支援を行っていく ・長谷毛原、動木以外の地区への波及、展開のため、働きかけや啓発に取り組んでいく
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【1】要介護認定の適正化	・認定調査員の全国テスト（e-ラーニング）の平均点数 (R5) 平均点数 全国以上	・認定調査員の全国テスト平均点数 (R4) 平均点数 94	◎	・R4は専任調査員3名中1名の受験のみとなったが、平素から調査内容をチェックしあったり、判断に迷うものは協議するなど共有し内容の適正に努めている。また、専任調査員を問わず、兼務の保健師職員も行うことがあるため、継続して質の維持向上に努めていく。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【2】ケアプランの点検	①給付適正化システムを活用したケアプランの点検・指導・評価回数 (R2) (R5) 1 2 ②町指定の介護事業所への指導等	①ケアプランの点検・指導・評価回数 (R4) 2(21件) 給付適正化システムを活用し、事業所から関係書類を徴して加算の適否を確認。 ②地域密着型サービス事業所への実地指導件数 (R4) 0	△	①限られた人員体制のため、給付適正化業務マニュアルの作成やノウハウを蓄積し、煩雑になりがちな部分を整理し業務効率化を行っていくことが課題。 ②外部評価も活用しつつ、実地指導計画をたて計画的に指導を行うことが望ましいものの、限られた人員体制で遂行していくことや実地指導ノウハウを蓄積していくことが課題。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【3】住宅改修等の点検	住宅改修、福祉用具について、ケアマネージャー等との連絡を密にし、自立支援につながるものとなっているかを確認する。	住宅改修…過去の改修履歴も踏まえ、申請全件について、必要に応じてケアマネージャーにも聴取する等、事前に必要性を確認。福祉用具…住宅改修同様に関係者に必要性を確認。	◎	・必要性は主に事務職員による書面確認に留まっており、平素から理学療法士等による確認は行っていないのは課題。 より適正に資する現地確認の必要性は認識しているものの人員体制など整えられることはないため、現状維持で実施していく。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【4】縦覧点検・医療情報との突合 【5】介護給付の通知	・縦覧点検・医療情報突合 (R2) (R5) 全件 全件 ・介護給付費通知発送	国保連委託で両事業とも実施。 ・縦覧点検・医療情報突合で、疑義がある事業所に確認は行ったが、帳票すべての確認はできていない。 ・介護給付費通知発送回数 (R4) 4	◎	【4】限られた人員体制であるため国保連委託を活用して、効率よく効果的な帳票に絞って確認を行っている。 【5】郵送だけでなく、利用者に確実に届くよう事業所を通じて通知する工夫をしている。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、また社会的資源の継続のため介護職員の確保や災害・感染症に対応した支援・応援体制を確率する必要がある。	【6】介護人材の確保 【7】災害・感染症対策	・介護職員初任者研修受講補助金の確認 (R2) (R5) 未実施 1	・介護職員初任者研修受講補助金 (R4) 交付決定 1 ・備蓄状況確認 (R4) 未実施	△	【6】交付が1件に留まったが、継続して事業所に周知していく。 【7】事業所策定が義務化されるBCP計画の作成状況の把握を行う際に等、適時、備蓄状況の確認も行っていきたい。